

流星のロックマン4～  
チームシューティング  
スター～

夢神光

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

メテオGが消滅し1年

スバルたちは6年生になろうとしていた

しかし、平和は長く続かない

謎の少年ともう一人のウォロック、彼らは一体何者なのか？

そしてスバル達は再度世界を救うことができるのだろうか

この小説は、現在閉鎖されているすぴばる小説部に投稿されてた作品のリメイク版で



# 目次

プロローグ	1
犯罪者はウオーロック!?	4
ロツクマンVSロツクマン	15
強襲! W R K	26

# プロローグ

22XX年地球上の全ての電子機器が電波で繋がれている時代。

青き流星がメテオGを破壊し、さらにはブラックホールサーバーにいた世界を破壊しようとしていたシリウスを倒し、世界には平和が訪れた・・・

しかし、その平和も長くは続かなかつた。とある科学者達がまさかの手を組み、また世界を破壊しようとしているのだ・・・

だが、このことは、あの青き流星は気がついていない、今は春休み中なのだ

いや、青き流星だけではない。地球に住んでいるものはおろか、盟友FM星の住民ですら気がついていない。

この計画は誰にも気づかれなはずだった・・・が  
一人の少年がこの計画に気付いていた

キンキン！ガツ！

??? 「はあはあ、やっぱり三人同時相手はきついか・・・」

『確かに、1人はナビと融合・・・クロスフュージョンしてしまっているがな』

「ノイズが酷くなかったらリデルと戦えるんだけど・・・」

『無茶を言うな！だが俺も年だな、もうそろそろけりをつけないと不味いぞ勇氣』

勇氣「わかつているよウオーロック、だけど、部が悪すぎる」

1「ハッハハ！どうした？さつきよりも勢いがないが？」

2「なぜ私達の計画を知っていたのかは知らんが1人できたのは失敗だったようだな！」

な！

勇氣「くっ！」

2「しかし、ここで終わりだ！クロスレーザー！！」

3「散れ！偽物のロックマンめ！」

ウオーロック『不味い！サイバーアウトだ勇氣！』

勇氣「くっ！サイバーアウト！」

2「し、しまった！」

3「逃がしたか・・・」

1「ほっておけ、ようやく乗っ取ったこのブラックホールサーバーがあれば奴らな

どひとひねりじゃ」

2「そうだ！あの憎きロックマンですら倒すことが出来る！」

3 「そして世界の支配者になることもな・・・」

1 「これで我々の目的を達成することができるのだ！」

3 人 「ワツハハハハ！」

果たして、青き流星、シューティングスターロックマンはこの世界の危機をうち壊すことができるのだろうか？

はたまた、世界は滅んでしまうのか？

次回予告

セリフ：星川スバル

メインコンピュータに侵入者!? 不味いメインコンピュータを破壊されたらサテラポリスは壊滅してしまう! えっ? 犯人はウォーロック!?

次回、流星のロックマン4くチームシューティングスターく《犯罪者ウォーロック!》次回もみてね! トランスコードシューティングスターロックマン!

# 犯罪者はウオーロツク!?

（勇気）

ウオーロツクY 『なあ、こんな今頃こんな所に来てどうすんだよ！それよりも住む場所を探そうぜ！』

勇気 「だから、何度もいうけど海の上でも建てること出きるから問題ないって言うているでしょ！」

ウオーロツクY 『そんなことを言ってもよ！データ探しはつらいだけだぜ！』

??? 『今は戦力が必要なんです』

勇気 「リデル、見つかった？」

リデル 『いえ、88%しか見つかっていません。あとあるとすればインターネットの中しかないでしょう』

勇気 「ウオーロツク、電波変換出来る？」

ウオーロツクY 『まだ無理だ、後二時間は掛かる』

勇気 「無茶に戦ったから仕方ないか：リデル、お願いしていい？」

リデル 『わかりました。私をプラグインしてください。』

勇気「OK、プラグインリデル、トランスミッション!」

くリデルく

勇気「どうだ?リデル?」

リデル『サーチングします…反応があります。ですが周りにはウイルスがいるようです』

勇気「ノイズの方は大丈夫?」

リデル『ええ、ノイズ率は0%です』

勇気「なら僕がオペレートする。とにかく回収に向かって!」

リデル『了解です』

奥に進むとテータの周りにメットールが4体いる

リデル『勇気、見つけました。メットールが4体です』

勇気「メットール?おかしいでも回収が先だ行くよりリデル、」

リデル『はい、オペレーションをお願いします』

勇気「バトルカード、バルカンスロットイン!」

右手にバルカンが装着される

リデル『受けなさい!えい!』

バルカンをメットールに向かって打つとメットール達は次々にデリートされていった

リデル『あれ？終わった？』

勇気「…おかしいが先にデータの回収を頼む」

リデル『了解：回収完了です。全てのデータが揃いました。今すぐプラグアウトをお願いします』

勇気「わかった。プラグアウト」

インターネットからプラグアウトをした

く勇気く

勇気「リデル、お疲れ！」

リデル『はい、ですが何故あそこまでウイルスが弱体化したのでしょうか？』

ウオーロックY『いくらなんでも弱くなりすぎだ！』

勇気「確かに：元ディーラーのアジトにも関わらず、ウイルスが弱かった」

ウオーロックY『俺たちが最初に来た時は全然弱くなかったぜ！むしろ強い方だった』

リデル『メテオGが消滅したからでしょうか？』

勇気「わからない・・・とりあえず、約束もあるし、オグタマスタジオに行くか」

リデル『このデータの修復は明日に移しましょう』

ウォーロックY『なら早く出ようぜ！電波変換は無理だから自分で飛べよ！』

勇気「はいはい、リデル、いつもの奴頼む」

リデル『わかりました！』

勇気「よし、行こう！」

スバル

ルナ「いいわね！明日は9時に駅前集合よ！特に、スバル君、ゴン太、遅刻するん

じゃないよ！」

ゴン太「わかってるぜ！」

スバル「もちろん！」

キザマロ「明日は学校の準備の後、久しぶりのミソラちゃんのコンサートがあるので  
すから遅刻はするしませんよ！」

ゴン太「もちろんだぜ！ミソラファンクラブの一員だからな！」

ルナ「じゃあ明日に備えて解散よ早く帰りなさい！」

キザマロ「ではまた明日です。みなさん」

ゴン太「じゃあな！」

スバル「また明日ねみんな！」

ルナ「遅刻をしないでよ！」

今日は早く帰ってねるぞ！

（???）

ようやく撮影が終わり、あの人と待ち合わせ

???「お待たせしました勇氣さん」

勇氣「待つてはいないよ、それよりもスズカさんどうなさるかお決めになりましたか？」

スズカ「もちろん！私は：世界を守ることのお手伝いが出るならよろこんでお引き受けします」

勇氣「ありがとう！因みにあなたのウイザート、アイスはどのようなの？」

アイズ『私がかつて罪を犯してしまった。確かにスズカには危険な目には合わせたくないけどスズカ本人もやるって言っているし、私も過去に犯した罪を償いたい。だから私も協力するわ』

勇氣「では、秘密も教えていることだし、ブラザーを結びましょう」

スズカ「はい！」

リデル『電波変換について説明しておきます』

スズカ「あなたがリデルね宜しくお願いします」

リデル『はい、よろしくお願います。しばらくの間はトランスコードを利用せず、電波変換、〇〇、オンエアと言ってください。〇〇には自分の名前を入れてください』

スズカ「どうしてんですか？」

リデル『WAXAがまだ完全には復帰していないからです』

勇気「新たなトランスコードを発行できなくなっているんだ」

スズカ「そうですか、わかりましたこれからも宜しくお願います」

勇気「ああ、あと、出来ればどこか泊まれる所ない？未来から来たばかりだから家は作れるんだが…土地がまだ許可を取れていないからさ…」

スズカ「それなら楽屋を使ってください。オグタマスタジオは新しくなって、1人一部屋あるぐらい広くなりましたから」

勇気「ありがとう！案内してくれる？」

スズカ「はい、こっちです！」

……

ウォーロックY『結局場所がなかったんじゃねえかよ』

リデル『まあまあ、見つかったことですし良かったんじゃないですか』  
ウォーロック『けっ！』

く勇氣く

次の日の早朝……

勇氣「じゃあ、作戦を確認するよ！まず、僕は防護服を着てウォーロックと電波変換し、WAXAのメインコンピュータの電脳に侵入、その後、電波変換を解き、僕とリデルはデータの修復、ウォーロックは多分サテラポリスが来ると思うから足止めをして」

ウォーロックY『わかったぜ！』

リデル『了解です』

勇氣「ウォーロックがきつくなったら再び電波変換し、僕たちで食い止めるからリデルは修復を行って！」

リデル『了解です』

勇氣「じゃあ作戦開始、プラグインリデル、トランスミッション！電波変換、星空勇氣、オンエア！」

くWAXA側く

研究員「ヨイリー博士！メインコンピューターに侵入者です！」

ヨイリー「今すぐサテラポリスに連絡、至急に討伐に向かわせて！私達はメインコンピューターを取り戻すよ！」

研究員「はい！」

く電脳の中く

ウォーロックY『ちっ！来やがったぜ！』

勇気「僕達は既に修復を始めている、ウォーロック、時間をかせいで！」

ウォーロックY『わかったぜ！』

.....

ポリスナビA『そこまでだ！サテラポリスだ大人しく投降するんだ！』

ウォーロックY『データ修復の邪魔はさせないぜ！オラ！ビーストシング！』

ポリスナビA『ぐわあああ！』

ポリスナビB『まさか！ウォーロックだと！おい、お前は今すぐこの事を長官に報告するんだ！急げ！』

ポリスナビC『は、はいサイバーアウト！』

ウォーロック『悪いがたとえ一緒に戦ったサテラポリスでもデータの修復の邪魔はさせないぜ!』

ポリスナビB『やはり、ウォーロックか、犯罪者になるなら手加減はせん!』  
ウォーロックY『上等だ!オラ!』

↳ W A X A 側↳

長官「つまり、襲撃者はウォーロックだと?」

ポリスナビC『はい、彼の攻撃、彼の声、ゼット波まで全く同じでした』

守「何かの間違いです!長官!」

長官「うむう!」

ヨイリー「ここは、スバルちゃんに連絡し、トランスコードを通じて電波変換を行ってもらい、ロックちゃんがスバル君の近くにいるか確認したらどうでしょうか?」

長官「そうだな、それしかない!」

ヨイリー「守ちゃん今すぐスバルちゃんに連絡を取って!」

守「わかりました!ヨイリー博士!」

長官「嘘だと信じたんだが!」

ヨイリー「だけど気になるのはロックちゃんが言っていた修復の邪魔をするなど言う

言葉、一体何を修復しようとしているのかしら?」

くスバルく

ウォーロックS 『ス、バ、ル、起きろ!!!また委員長に怒られるぞ!』

スバル 「ムニヤムニヤ後30分:」

ウォーロックS 『だ・か・ら!遅刻だつて!つ!スバル!サテラポリスから電話だ!早く出ろ!』

スバル 「全く、うるさいな!ブラウス!」

守 「スバル君、今どこにいる?」

スバル 「天地さん!今は家にいますか?」

守 「ならウォーロックはそこにいるか?」

スバル 「はい、きちんとハンターの中にいますか?」

守 「じやあ聞いてくれ!今ウォーロックが犯罪者扱いになっている!理由は今現在、メインコンピュータに侵入しサテラポリスに攻撃しているからだ!」

スバル 「メインコンピュータに侵入!」

守 「悪いがスバル君、ロックマンに変身して中にいるウォーロックを倒してくれ!」

スバル 「わかりました!今すぐ向かいます!」

守「頼んだぞ！」

スバル「ウォーロック！」

ウォーロックS『ああ、俺を犯罪者に仕立て上げるとは許さねー！スバル、電波変換だ！』

スバル「うん！トランスコード003シューティングスターロックマン！」

ウォーロックS『それじゃあ行くぜ！』

スバル「うん！…あつ！委員長との約束忘れてた…どうしよう…」

ウォーロックS『後で考えろ！行くぞ！』

次回予告

ナレーター：スバル

メインコンピューターにつき中に入ったら、ウォーロックが！そして、まさか、僕！？

次回、流星のロックマン4々チームシューティングスター々《ロックマンVSロックマン》

次回もまた、トランスコード！

# ロックマンVSロックマン

（WAXA側）

研究員「長官！トランスコード003、コダマタウンにて確認！」

長官「ふむ、ウォーロックは犯人ではなかったか…」

研究員「今、スバル君はこちらに向かっています」

ヨイリー「コピーか偽物かわからないけど、到着を待つしか無いわね」

長官「うぬ、そういうえば博士、データ修復について何かわかりましたか？」

ヨイリー「それが…一度見たことのある回路、いや操作したことのある回路と言った方がいいわね」

長官「その回路とは!？」

研究員「長官！ロックマンがメインコンピュータに入りました」

長官「おお！頑張ってくれスバル君！」

（ 脳の中）

ウォーロックY『オラ！これで最後だ！』

ポリスナビ『む、無念…』

ウォーロックY『さてこれで全部だな！あまり心地よくないな、まあ、時間は稼げた  
だろもうそろそろ…』

ウォーロックS『見つけたぞ偽物め！』

ウォーロックY『はあ、休ませてくれよ…』

スバル『そこまでだ、早くメインコンピュータを返すんだ！』

ウォーロックY『スバルか…懐かしいが悪いが人の命の問題なんだ！邪魔をしないで  
くれ！』

ウォーロックS『人の命かわからんが、さっさと片付けるぞスバル！』

スバル『うん、ウェーブバトル、ライドオン！』

ウォーロックY『頼むから引いてくれ、ビーストスイング！』

スバル『バトルカード、ブレーション！ロングソード！』  
ガキン！

爪とロングソードがぶつかり合う

ウォーロックY『全く、人の話も少しは聞けよ！オラ!!!』

スバル『うわあ！なんて力だ！』

ウォーロックS『偽物の癖に俺より力強いだと！』

ウオーロックY 『経験の差に決まってるだろうが・・・』

ウオーロックS 『スバル！遠距離で攻撃しろ！』

スバル 「わかった！バトルカードブレレーション！ガトリング！食らえ！」

ウオーロックY 『(不味い！避けると後ろの勇氣達に当たる)ぐわあ！』

スバル 「あ、当たった？」

ウオーロックS 『その調子だやれ！』

スバル 「ロックバスター！」

ウオーロックY 『ぐっ！このままだと…一旦引く！』

ウオーロックS 『あつ！待ち上がれ』

スバル 「奥に行つたみたいだね」

ウオーロックS 『追いかけるぞスバル！』

スバル 「うん！」

……

ウオーロックY 『勇氣、悪い、限界だ！』

勇氣 「大丈夫!?!ウオーロック！」

ウオーロックY 『かろうじてな！今、スバルが来ている』

勇氣 「なら、僕たちが出ないといけないんだね」

リデル『あと、20%で修復終了予定です！1人で出来るところはやりますので、早めに帰って来て下さい！』

勇気「わかった、行くよウォーロック！」

ウォーロックY『おう！』

……

ウォーロックS『見つけたぜ！』

スバル「え!?何で人間が電脳の中に出るの？」

ウォーロックS『大抵、ジャックやクインティア、キングと同じ原理だろ！』

勇気「悪いけど、今、争っている場合じゃないんだ！早くウェブアウトしてもらえないかな？」

ウォーロックS『そんなことは知るか！やってやろうぜ！スバル！』

スバル「うん！」

勇気「全く、スバル君はウォーロックに似てきたね」

ウォーロックY『悪かったな…』

勇気「早く終わらせるよ！電波変換、星空勇気、オンエア！」

ウォーロックS『な、何だと！』

スバル「う、嘘…僕!?!」

勇氣「バトルカード、ソード、ワイドソード、ロングソード、GAジャイアントアックス！」

スバル「不味い、バトルカードブレレーション！水月斬！」  
ガキン！

スバル「つ、強い！」

勇氣「この程度か？ロックマン！」

スバル「うわあ！くっ！バトルカードブレレーションバルカンシード」

勇氣「バトルカードオーラ！」

放たれた弾を全てはじいた

スバル「弾かれた！」

ウオーロックY『ノイズ率200%超えたぜ』

勇氣「ならいくよ！ファイナライズ……」

ウオーロックS『何だと！ファイナライズだと！』

スバル「メテオGが消滅したからできないはず！」

勇氣「レッドジョーカー！」

スバル「何だって！」

ウオーロックS『不味いぞ！スバル！』

ウオーロツクY 『一撃で決めろ！』

勇気 「わかつている！」

手にクリムゾンが集まる

勇気 「レッドガイアイレイザー！」

スバルを中心に大爆発が起こる

スバル 「ぐわあああ！」

ウオーロツクS 『スバル！体もたねえ！サイバーアウトだ！』

スバル 「仕方ないサイバーアウト！」

スバルはサイバーアウトを行った

勇気 「なんとか威力を調整できた」

ウオーロツクY 『もう少し強かったらデリートになっていたぜ』

勇気 「とにかく、修復を再開しよう！…リデル、そっちはどう？」

リデル 『後、10%、でも、1人では限界です。早く来て下さい！』

勇気 「わかつたすぐ向かう！」

（WAXA側）

スバル 「うわあああ！」

「「スバル君（ちゃん）!!!」」

長官「大丈夫かね？」

スバル「なんとか、でも中にはウオーロックと全く同じ生命体がいて、その生命体と人間が電波変換を行い、僕の姿に似たロックマンになったんです！」

ウオーロックS『違う所と言えば髪の長さかバスターが逆と言う所だけだな』

長官「ロックマンに似た電波体だ！」

ヨイリー「あと、人間が電脳世界にいたと言うのも気になるわね……」

スバル「後、気になる点が二点、まず、その相手がファイナルライズを行い、レッドジョーカーに変身したんです」

ヨイリー「まあ！」

長官「メテオGは消滅したバスなんだが」

ヨイリー「その以前にどうしてジョーカーPGをなしに変身したところね」

スバル「後、もうひとつ、人間、星空勇気と言うらしいですけど、人の命が関係しているから邪魔しないでくれと言っていました！」

ヨイリー「人の命……そういうわけね……」

ウオーロックS『あと、向こうの俺がスバル、つまりロックマンの状態であったとき、久しぶりだなと言っていたぜ』

長官「それはどういう意味でしょうか？」

研究員A「博士！メインコンピューターが急に動きだしました！」

研究員B「さらに生態反応を確認！」

ヨイリー「何も触らず待つてみなさい」

研究員B「はい！わかりました！」

長官「どういう意味ですか？博士？」

ヨイリー「かつて私が見たことのある回路だつて言ったよね？この回路はルナちゃんを再構築した時と同じ回路なの」

長官「まさか！犯人がアクセスした理由は…」

ヨイリー「きっと電波生命態、もしくは電波変換した状態でバラバラになった人を再構築している可能性があるわ」

長官「因みに、該当するのは？」

ヨイリー「そうね…私が知っているとしたらジョーカーか…シドウちゃんしかいないわね」

スバル「！曉さんですか？」

ヨイリー「そう、その人、結局彼の行方は解らなくなっていたから可能性はあるわ」

研究員A「博士！装置が正常に動いています！」

研究員B 「誰か出てくるようですよ！」

ヨイリー 「じゃあ迎えに行きましょう」

く 電腦の中く

リデル 『装置オールグリーン、構築完了。成功です！勇気！』

勇気 「よし！上手くいった！これでサテラポリスも戦力が補える！僕達も出るよ！プルグアウト！サイバーアウト！」

く W A X A 側く

????? 「ここは…どこだ…」

????? 『どうやらメインコンピュータールームのようですね。シドウ』

ヨイリー 「シドウちゃん…」

スバル 「暁さん！」

暁 「おっ！博士にスバル！どうなっているんだ？」

長官 「今すぐ、星空勇気を探した方が良さそうだな」

守 「ええ、暁さんも生き返らしてもらったお礼も言わないといけませんしね！」

長官「そうだな、だが今は再会を喜ぶことにしよう！」

くオマケく

暁さんが検査を受ける為、全員がいなくなると突然、スバルのハンターに電話がかかった

ウオーロックS『スバル、電話だぜ！』

スバル「今度は誰だよ！ブラウス！」

画面には鬼にみえる委員長の様が：

ルナ「す・ば・る君！また遅刻とはいいい度胸よね！覚悟はできているよね！」

スバル「忘れてた！」ごめんなさい！今、WAXAについて事件が起きていたから集合

時間に間に合わないんだ！」

ルナ「どれだけ待たせたら気が済むのよ！予定が変更になったのよ！」

スバル「ご、ごめんなさい！」

ルナ「とにかく、今からオグタマスタジオに向かうからあなたは先に待つてなさい！

もし待つていなかったらどうなるかわ・か・つ・て・い・る・よ・ね？」

スバル「は、はい！わかっていきます！」

ルナ「よろしい、後で会いましょうスバル君…ふん！」

電話が切れた

…

スバル「う、ウォーロック、今日の夜ウイルスバスターリングするから電波変換お願い」  
ウォーロックS『しやねえな、いいぜ!』  
スバル「トランスコード003、シューティングスターロックマン!」

次回予告

ナレータ：白金ルナ

私達はミソラちゃんのコンサートに来たわ。

会場は、きれいなピンク色に、真っ白な雪だるま!?

突然雪だるまが暴れだし、会場は大混乱。

そこに登場したのは、ロックマン様と…誰?

次回、流星のロックマン4〜チームシューティングスター〜《強襲、WRK》  
きやあああ!ロックマン様!

## 強襲！WRK

「オグタマスタジオ」

勇気「悪いね、スズカ、また今日も泊めさせてもらって」

スズカ「構いませんよ！今日はミソラのコンサートだから凄く騒がしいかもしれないかもしれませんが」

勇気「いやいや、泊めてくれるだけでもありがたいよ。スズカはこの後どうするの？」

スズカ「今日はオフなので、ミソラのコンサートを见ようと思います。親友ですし」

勇気「そうか、なら僕はウエーブロードの上にいるから何かあったら連絡して」

スズカ「わかりました。それじゃあ、ミソラに会いに行ってくださいます！」

~~~~~

ルナ「約束通り、待っていたわね」

スバル「つ、疲れた！」

キザマロ「休んでいないで早くミソラちゃんに会いに行きますよ！」

スバル「わ、わかったよ!」

ゴン太「でもな、オグタマスタジオが新しくなったからミソラちゃんがどこにいるか分からないんだよな」

キザマロ「ミスターキングにメテオGで攻撃されてから設備に不具合が起きるようになったので新しく建て直したですな」

ウォーロックS『ノイズをたつぷり浴びたからな、不具合起きてもおかしくないな』  
スバル「じゃあ、どうやってミソラちゃんに会うの?わざわざ呼び出すの?」

ルナ「なら近くの人に聞いてみましょう!あの、すみません!」

勇気「うん?僕に用かい?」

ルナ「はい!あの、響ミソラの楽屋はどこでしょうか?」

勇気「ああ!ミソラちゃんの楽屋なら一番奥の楽屋だよ」

ルナ「ありがとうございます!行くわよ、あんた達!」

ゴン太「おう!」

キザマロ「わかりました!」

ウォーロックS『・・・今のあいつどこかで会っていねえか?』

スバル「?そうかな?会った事がないと思うけど?前に来た時にでも会ったのかな?」

ウオーロツクS『いや、もつと最近に会ったような気がするが・・・』

~~~~~

コンコン！

???「どうぞ！」

スバル「久しぶり！ミソラちゃん！」

ミソラ「久しぶりねスバル君、ルナちゃん、ゴン太君、キザマロ君」

スズカ「お久しぶりです。皆さん」

ゴン太「あれスズカちゃん？」

キザマロ「久しぶりですね、どうかしたのですか？」

スズカ「親友の激励よ」

ミソラ「スズカは私の応援に来てくれたの！」

スズカ「仕事が終わったのでミソラがライブをするって言っていたから応援に来たの

よ」

キザマロ「そうだったんですか」

ゴン太「じゃあ俺達と一緒に見ようぜ！」

ルナ「それはいいわね！」

スバル「どうかな？ スズカちゃん？」

スズカ「良いですよ、一緒に見ましょう」

ミソラ「よし、スズカも見てくれるからやる気が倍増した！」

スバル「頑張つてね、ミソラちゃん！」

キザマロ「ミソラちゃん、応援しています！」

ゴン太「ミソラちゃん、頑張れよ！」

ルナ「ミソラちゃん、がんばりなさい！」

ミソラ「みんなありがとう！リハーサルに行ってくるね！」

くライブ会場く

♪ドライブオン今がそのとき

固い絆（固い絆）確かめあい（確かめあい）目を閉じていても（感じて）

信じ進む力のために前と！

「うわあああ！（拍手）」

アイス『スズカ、メールが届いているわ！』

スズカ「ありがとうアイス……!!アイス、急いでウェーブロードに行くわよ！」

スバル「どうかしたの？」

スズカ「いや、スバル君、何でもないよ」

スバル「そう？」

ミソラ「みんな！次の曲にいくよ！」

「おー!!!」

スバル「頑張れミソラちゃん！」

スズカ「(アイス今のうちに抜けるよ)」

アイス『わかったわ』

~~~~~

スズカ「このあたりなら誰も見ていないよね？」

アイス『何があつたのよ』

スズカ「メールにミソラを狙っている奴がいるって、そんな邪魔はさせないわ！」

アイス『そうね、親友を助けるのは当たり前よね。準備はいい？スズカ』

スズカ「もちろん！電波変換、スズカ、オンエア！」

スズカがいた場所には以前ダイヤアイスバーンと呼ばれた電波体に似たが氷の魔女

がいた

スズカ「これが私・・・!!」

アイス『私が暴走していた姿に似ているけど、スズカがベースだからちよつと違うわね』

スズカ「さて急ぐよ、アイス！」

アイス『もちろんよ』

~~~~~

勇気「全く、数だけが多いよね！」

ウオーロツクY『ああ、いくらメットツールでもこれだけいたらキリがねえ!』

勇気「100体以上倒しているのに減っていないのは何故?」

スズカ「お待たせしました!」

勇気「スズカ!来てくれたか!」

スズカ「はい、でもものすごい数ですね」

勇気「一種のトラウマになりそう」

スズカ「初戦闘ですが、こんなに多いと・・・」

ウォーロックY『しゃべっていないで来るぞ!』

勇気「わかっているよ!バトルカードキャノン×3GAギガキャノン!食らえ!」

スズカ「こうかな?ブリザード!」

約50体ほど倒した

スズカ「やった!」

アイス『!いや、まだよ!』

ウォーロックY『また増えやがった!』

勇気「弱いのにここまで増えたらキリがない!」

スズカ「何かトリックがあるのでではないでしょうか?例えば、ノイズを利用している

とか・・・」

ウォーロックY『その可能性はあるな・・・よし!ブラックエースになって周囲のノ

イズをはらってやれ!』

勇気「よし!ファイナライズ・・・ブラックエース!・・・よし、行くぞ!ブラック

エンド・・・ギヤラクシー!」

ブラックホールにメットール達が吸い込まれていきブラックエースはブラックホー

ルごと切り裂いた

ウォーロックY『どうだ・・・?』

アイス『成功のようね』

スズカ「やった!」

勇気「!まだまだ!ステージが危ない!」

スズカ「えっ?ステージ?」

そこではセットして置かれていたと思われた雪だるまが突然動きだし、ミソラの頭上に大きな雪玉を作っていた

スズカ「み、ミソラ!」

勇気「やば!間に合え!」

くステージく

ミソラ「羽ばたく、絆く」

ウォーロックS『おい、スバル!急いでミソラの頭上を見ろ!』

スバル「頭上?・・・!危ない!ミソラちゃん!」

ミソラ「輝いてく・・・!!」

突然、大きな雪玉がミソラの上に落とされた!

ゴン太「ああ!ミソラちゃんが!」

キザマロ「雪玉の下敷きに!」

ルナ「嘘でしょ！そんな・・・」

???『くくくく、さあ絶望しろ！そしてその絶望でアンドロメダを再び復活させるのだ！』

スバル「アンドロメダだって！」

ウオーロツクス『お前何者だ？』

ブリザードマン『我が名はブリザードマン！WRKのナビだ！』

スバル「ナビ？おかしい、ナビは全てなくなつた筈、何故お前がいるんだ！」

ブリザードマン『そう簡単に教えるはずもないだろ！今度は客席だ！死ぬ！』  
大きな雪玉が作られていく

ウオーロツクス『スバル！電波変換だ！』

スバル「うん！」

ルナ「ゴン太！あんたも行きなさい！」

ゴン太「おうよ！」

スバル・ゴン太「トランスコード!!」

スバル「003シューティングスターロックマン」

ゴン太「005オックスファイア！オックスフレイルム!!」

ゴン太は変身してすぐに炎を吐き雪玉を消滅させた

スバル「僕たちが相手だ！」

ゴン太「お前を倒してすぐにミソラちゃんを助けるぜ！」

ブリザードマン『この時代にもロックマンがいるのか？だが状況をよく見てみる！お前たちの周りにはたくさんのお人間の人間がいるのを忘れたのか？』

スバル「くっ・・・」

ブリザードマン『お前たちが動けば後ろにいる人間たちもさっきの女みたいに雪だるまにしてやるヒュルー』

ウォーロックS『つち、どこまで卑怯な野郎だ！おいスバル！さっさとこの野郎を倒すぞ！』

スバル「そうしたいけど、今動くともみんなが・・・」

ブリザードマン『さっき雪だるまにした女からも大量の恐怖が・・・あり？』

ゴン太「様子がおかしいぞ？」

スバル「何があつたんだ？」

ブリザードマン『何故だ！雪だるまにして閉じ込めたはずなのに恐怖を抱かないだど!?』

勇気「勘違いしてもらったら困るよ！」

ブリザードマン『だ、誰だ！』



ゴン太「そうだ！ミソラちゃんを傷つけようとしたのは許せねえ！スバル！俺たちも加勢しようぜ！」

スバル「ええ!?ゴン太まで同調してる！」

ウオーロックS『なあ、あのダイヤアイスバーンってまさか…』

スズカ「食らいなさい！コールドハンマー！」

勇氣「NFBサンダーボルトブレイド！」

ゴン太「オックスファイアー!!」

スバル「もうどうにでもなれ！チャージショット!!」

ブリザードマン『4対1は流石にマズいヒュル！逃げるヒュル！』

ブリザードマンはウエーブアウトした

ウオーロックY『逃がしたか!』

勇氣「仕方ない僕たちもウエーブアウトするよ！」

スズカ「ロックマン、ミソラはちよつと眠ってるだけだからあととはよろしくね」

ダイヤアイスバーンに似た少女はロックマンにミソラを預けた

スバル「ちよ!?!なんで僕に!?!」

スズカ「それじゃ頼んだよ」

ウオーロックS『ちよつと待ちあがれ』

ブラックエースとダイヤアイスバーンに似た少女はウェーブアウトをした

スバル「また謎が増えたね」

ウオーロックS『なら知ってそうな奴に聞くしかねえな!』

スバル「うん、WORKについてと、何故ダイヤアイスバーンとブラックエースがいたかだね」

次回予告

ナレーター：光熱斗

セリフ：ロックマンエグゼ

急に犯罪者達が消えた!?

「どうやら脱走したみたいだね」

そしてジャスミンとメディから語られる真実

「どうやら2人は何か知っているみたいだね」

次回、流星のロックマン4々チームシユータイングスター々《集合! ツインリーダーズ!》

「次回もこの小説に!」

アクセス!